



ミャンマーの 民主化を考える



国軍による見せかけの「選挙」と日本からできること

2021年2月1日にミャンマー国軍が引き起こしたクーデター以降、同国では国軍や警察による民間人に対する暴力が継続し、多数の死傷者及び拘束者が発生している。クーデターから2年3ヶ月になる2023年5月初旬の国連の報告では、ミャンマーには推定180万人以上の国内避難民(IDP) (クーデター以降の新たな避難民150万)が存在する。国軍は無差別砲撃や空爆を続け、子どもを含む多数の民間人が死傷、やむを得ず武器を取った市民も増え、各地で武力衝突が発生し事態は混迷を極めている。日本政府はクーデター以降、ミャンマー国軍に対し、暴力の即時停止、拘束された関係者の解放、民主的な政治体制の早期回復を求めている一方、7千億円にも上る円借款(政府開発援助)を継続するなど、ミャンマーへの経済支援は停止していない。国軍は各地で市民や少数民族武装勢力と戦闘を行い、また、自らに批判的な政党の活動を妨害したまま、「選挙」を実施しようとしている。この国軍の動きを日本政府が支援するのではないかとミャンマーの市民社会からは強い懸念の声が上がっている。今回のセミナーでは、ミャンマー市民社会の声を集め発信してきたProgressive Voiceのキンオーンマー氏をゲストに招き、市民社会がなぜ「選挙」に反対しているか、また、日本からどのような支援を求めているか話を伺い、議論する。

2023

6月4日

13:30~16:00 (開場13:00)

1

「ミャンマー情勢、市民社会の望む支援」

発表者：キンオーンマー (Progressive Voice) 英語、逐次通訳付き

2

「ミャンマー国軍と日本の資金的なつながり」

発表者：木口由香 (NPO法人メコン・ウォッチ事務局長)

3

「議論・意見交換」

モデレーター：松本悟 (法政大学国際文化学部教授)

法政大学市ヶ谷キャンパス・
ボアソナードタワー3階
マルチメディアスタジオ
(BT0300) およびオンライン



←
QRコード
より
お申込み
ください

要申込



キンオーンマー氏

(民主化・人権運動家、NGO Progressive Voice 創設者・会長)

大学時代から民主化運動に参加し、1988年の軍事クーデターでタイ国境に逃れた。以降、海外を拠点にミャンマーの民主化を目指す世界各国の団体の調整を担っている。

Progressive Voice (プログレッシブ・ヴォイス)

ミャンマーに連邦制の民主主義がもたらされることをめざして活動する調査・政策提言団体。ミャンマーにおける民主主義と人権を求める諸団体の連合であったビルマ・パートナーシップを前身とする。ミャンマー全土の草の根団体との協力関係を活かし、ミャンマーの市民社会からの声を国際社会に伝える架け橋の役割を果たしている。

共催 法政大学国際文化学部、法政大学大学院メコン・サステナビリティ研究所、NPO法人メコン・ウォッチ

協力 NPO法人アークス仏教国際協力ネットワーク、国際環境NGO FoE Japan、NPO法人日本国際ボランティアセンター(JVC)、武器取引反対ネットワーク(NAJAT)

問合先 メコン・ウォッチ info@mekongwatch.org

*本事業は財団法人大竹財団の助成を受けて実施しています。